

令和 6 年 5 月 19 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02321

研究課題名（和文）開発途上国における日本語教師の授業文化に関する研究：授業の「型」に着目して

研究課題名（英文）Study of the Classroom Culture of Japanese Language Teachers in Developing Countries: Focusing on the Pattern of the Class

研究代表者

西條 結人 (Saijo, Yuto)

広島大学・森戸国際高等教育学院・准教授

研究者番号：80825977

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、まず海外日本語教育における授業文化を学習観、教師観、授業観の観点から先行研究をまとめ、当該研究領域における現状と残されている研究課題を整理した。また、キルギス人学習者と非母語話者教師が授業のどの点を見て一般的、理想的と判断するか、「良い授業」の枠組みを用いた質問紙調査を行った。さらに、キルギス人非母語話者教師、母語話者教師の授業動画を録画、収集し、日本とキルギスの現職教師に授業動画を見せ、授業のどのような点を見て効果的か、非効果的と判断するのかを明らかにした。さらに、更なる分析の観点として授業内での教師の「笑い」として追加し、日本とキルギスの教師の「笑い」の機能を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で得られた成果は、今後の国際協力としての日本語教育や海外日本語教師養成、教師教育を考える上で重要である。本研究の対象であるキルギスは日本のODA対象国で、日本からJICAやJFを中心に多くの日本語母語話者教師が指導的立場で派遣されている。そのため、日本から派遣される教師は、現地の非母語話者教師に現地での教育方法を提言する機会や協働する機会が多く、その際には教育文化的差異を踏まえた教育支援や指導が必要となる。本研究でキルギス人日本語教師と母語話者教師の授業の比較を行い、授業の「型」の特徴を明らかにしたことにより、開発途上国における日本語教育研究の1つの事例を示すことができた。

研究成果の概要（英文）： This study began with a review of previous research on classroom culture in Japanese-language education overseas from the perspectives of learning, teachers, and classes, followed by an overview and summarization of the current status and remaining research issues in this field. A questionnaire survey was also conducted using the “good teaching” framework to determine the aspects of the classes that Kyrgyz learners and non-native speaking teachers would consider typical or ideal. Classroom videos of Kyrgyz non-native and native-speaking teachers were recorded and collected. The videos were then shown to Japanese and Kyrgyz practicing teachers, and the aspects of the classes they judged to be effective or ineffective were analyzed. In the process of analysis, the function of teachers’ laughter was clarified on the basis of the class videos, as it was assumed that there were differences in the function of teachers’ laughter.

研究分野：日本語教育学

キーワード：海外日本語教育 授業文化 非母語話者日本語教師 母語話者日本語教師 授業観 笑い キルギス

1. 研究開始当初の背景

従来の日本語教育における授業文化に関する研究は学習者や教師の自己意識に基づく理想の教師像や授業の解明が中心であった。そのため、実際の教育の営みに目を向け、日本国内外の日本語教育現場での一般的、理想的な授業の「型」がいかなるものであるか、そしてそれら授業の「型」はどのような教師観、学習観、授業観のもとに成り立っているのかは明らかにされていない。

そこで、本研究では日本と途上国における海外日本語教育の1つの事例としてキルギスを取り上げ、日本とキルギスで一般的な授業の「型」(現実)と望ましいと考えられる授業の「型」(理想)の特徴を明らかにする。海外日本語教育における授業文化研究の現状と先行研究に残された課題を踏まえ、開発途上国での授業の「型」を明らかにすることは、当該国の教育に対する理念を理想と現実の両輪から捉え、海外日本語教育現場で喫緊と課題になっている教育文化の乖離や、日本語母語話者教師による技術支援への批判を解消し、持続可能な教育開発支援が可能となる。

2. 研究の目的

本研究では、海外日本語教育における授業文化研究の現状と課題を踏まえ、キルギス人日本語非母語話者教師と日本語母語話者教師の一般的な授業の「型」、理想的な授業の「型」を明らかにする。さらには、二者間の授業比較を通じて、それらを支える学習者観、教師観、授業観を明らかにする。

3. 研究の方法

まず、海外日本語教育における授業文化研究を、学習観、教師観、授業観を観点として、当該研究領域における現状と残された課題を明らかにする。そして、キルギスの日本語専攻課程を有する大学を中心に国家教育基準やカリキュラム、シラバス等を調査し、キルギス人日本語教師がキルギスでどのような教育課程を経て教職に就いているのかを明らかにする。

キルギス人日本語非母語話者教師と日本語母語話者教師のキルギスにおける一般的な授業の「型」、理想的な授業の「型」を明らかにするために、質問紙調査を行う。さらに、キルギスの高等教育機関でキルギス人非母語話者教師、日本語母語話者教師の授業動画を収集し、日本とキルギスの現職教師に収集した授業動画を見せ、授業のどの点を見て効果的か、非効果的と判断するのかを明らかにする。これらにより、日本とキルギスの日本語授業文化の特徴を探る。

4. 研究成果

本研究では、日本とキルギスのキルギス人日本語非母語話者教師と日本語母語話者教師の一般的な授業の「型」、理想的な授業の「型」を明らかにすることを目的として、研究期間中に、次のようなことに取り組んだ。

(1) 「海外日本語教育における授業文化」に関する先行研究の概観

従来の授業文化研究は質問紙調査による量的研究が多く、質問紙以外の方法を用いた研究はあまり行われていない。このことから、実際の授業実践からアプローチする研究を試み、日本語授業文化を明らかにする研究も重要である。実際の授業実践を対象とした研究は、すでに開発途上国への教育開発支援、特に理数科教育分野で授業研究の事例が見られる。実際の授業実践に着目することで、教師と学習者の言語的、非言語的コミュニケーション、教室環境等も分析対象とすることが可能となる。実際の教室での授業や模擬授業、授業の録画データを日本語教師や日本語学習者に見せ、授業のどのような点を見て「良い」学習や授業、「優れた」教師であると判断するのか等を検討することも重要である。

授業文化研究を学習観、教師観、授業観から概観し、先行研究で残された課題を明らかにし、現状と課題を報告した。本成果は論文として公開された。

(2) キルギスの高等教育機関における日本語教師養成教育に関する調査

高等教育機関で日本語教員養成課程されていないキルギスにおいて、キルギス人日本語教師がどのような教育課程を経て教職に就いているのか、調査当時、キルギス国内で唯一、日本研究に関する教育研究組織を有し、学士課程と大学院修士課程に日本語専攻課程が設置されているカラサエフ記念ビシケク国立大学の教育カリキュラムと、キルギス共和国教育科学省策

定の「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育基準」（言語学、国際関係論、東洋学）を調査し、分析した。

ビシケク国立大学の事例から、キルギスの高等教育機関の日本語専攻課程は専攻言語の学習に重きを置いており、日本語学習を基盤として各専門分野の学習及び研究を行うという実態が明らかになった。カリキュラムの分析から、キルギスの大学における日本語教師養成の課題としては日本語教育の理論と実践を学ぶ機会が少ないことが挙げられる。大学院修士課程においては国際関係論専攻と東洋学専攻となっており、キルギス国内の大学院では日本語専攻課程において言語教育を専攻する分野は開設されていないのが現状である。本成果は、論文として公開された。

(3) キルギス人日本語学習者とキルギス人非母語話者教師対象の質問紙調査

キルギス人日本語学習者とキルギス人非母語話者教師から見たキルギスの大学における非母語話者教師の日本語授業の特徴を「優れた授業」の枠組みから「一般的な授業」と「理想的な授業」の2点を明らかにした。

研究の結果として「一般的な授業」に関しては、教室が暖かく、受容的な雰囲気のもとで、教科書を中心に授業を展開し、視聴覚教材や補助教材を用いながら、日本語・日本文化や日本の習慣が紹介されることが多い授業であることが明らかになった。「理想的な授業」については、教師の使用言語は日本語を積極的に使用し、教師主導で文型練習をする部分と、学習者が主体的に学習活動を行う部分を組み合わせた授業形態で、日本語とともに日本文化や日本の習慣も紹介する機会が多い授業であることが明らかになった。本成果は学会発表を行い、論文として公開された。

(4) キルギス人非母語話者教師、日本語母語話者教師の授業比較

キルギス人非母語話者教師と日本語母語話者教師の授業の「型」を明らかにするべく、キルギスの大学で開講されているキルギス人非母語話者教師、日本語母語話者教師の日本語授業の動画をデータとして収集した。データ収集後、日本とキルギスの現職教師に授業動画を見せ、質問紙調査とフォローアップインタビューを行い、授業のどの点を見て一般的か、理想的と判断するのかを質的に分析した。分析の結果、日本語母語話者教師はICT利用をはじめとする教育方法への関心が高かった一方で、キルギス人日本語教師は授業の雰囲気が明るいかどうか、授業内での学習者と教師のコミュニケーションを重視していることが明らかになった。このことにより、日本語母語話者教師とキルギス人日本語教師間で日本語授業の観点が異なっている可能性が考えられる。そこで、授業の雰囲気と教師と学習者のコミュニケーションに着目し、更なる分析の観点として「教師の笑い」を追加し、授業動画データ及び文字化した教室談話を分析した。本成果は2024年6月に名古屋大学で行われる日本比較教育学会第60回大会にて学会発表を行い、学会発表でのフィードバックを反映させ、研究の結果をまとめ、論文を投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 西條 結人	4. 巻 4
2. 論文標題 海外日本語教育における授業文化に関する研究の動向と展望ー学習観、教師観、授業観の観点からー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 306-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/54772	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西條 結人	4. 巻 68
2. 論文標題 キルギスの大学における非母語話者教師による日本語授業の理想と現実 日本語専攻学習者と非母語話者教師への質問紙調査から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.288-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西條 結人	4. 巻 35
2. 論文標題 キルギスの高等教育機関における日本語専攻課程のカリキュラム分析 : 非母語話者教師養成の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語文と教育	6. 最初と最後の頁 30-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029401	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西條 結人	4. 巻 67
2. 論文標題 キルギスの大学における日本語非母語話者教師の授業文化ー日本語専攻学習者へのアンケート調査からー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 86-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 西條 結人
2. 発表標題 初級日本語クラスの教室談話におけるキルギス人教師の「笑い」
3. 学会等名 韓国日本語教育学会第66回定期国際学術発表大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西條 結人
2. 発表標題 非母語話者教師による日本語授業における「笑い」の機能
3. 学会等名 西日本言語学会第53回研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西條 結人
2. 発表標題 キルギスの大学における非母語話者教師による日本語授業の理想と現実 日本語専攻学習者と非母語話者教師への質問紙調査から
3. 学会等名 中国四国教育学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西條 結人
2. 発表標題 キルギスの大学における日本語非母語話者教師の授業文化 日本語専攻学習者へのアンケート調査から
3. 学会等名 中国四国教育学会第73回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西條 結人
2. 発表標題 キルギスにおける国際協力としての日本語教育の在り方を考える
3. 学会等名 キルギスにおける日本語教育開始30周年記念日本語教育国際研究大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
キルギス	カラサエフ記念ピシケク国立大学		